

国際共同研究交通費補助 研究成果報告書

(適宜行追加可)

所属・職・氏名	商学部 教授 柿原武史
共同研究者 所属・職・氏名	ミーニョ大学 (ポルトガル) 准教授 Pazos-Justo, Carlos パズス・ジュスト、カルロス
研究課題	スペイン・ガリシア域外でのガリシア語教育とガリシア学研究に関する 国際共同研究
共同研究 実施期間	派遣期間： 2024年 4月 16日 ~ 2024年 4月 22日 招聘期間： 年 月 日 ~ 年 月 日
共同研究 実施場所	ミーニョ大学 (ポルトガル・ブラガ市)

1. 研究の成果 (本共同研究によって得られた新たな知見、成果等を簡潔に記述してください。該当しない場合は「該当なし」と記載してください。)
(1) 学術的価値 (本研究により得られた新たな知見や概念の展開等、学術的成果)
スペイン北西部ガリシア地方を中心に話されているガリシア語を話す人々の言語と文化について研究する世界中の研究者が集い、研究成果を報告する国際ガリシア学会に参加した。共同研究者を含む研究チームで実施した共同研究の成果を報告し、世界の多くの研究者とともに活発な議論を行なった。その結果、さまざまな知見を得ることができた。共同研究ではガリシア域外でのガリシア研究の実態についての調査報告を行い、同じパネルディスカッション内で個人として実施したガリシア語学習者の学習動機調査の結果を報告した。同じパネル内で報告を行ったアメリカ合衆国の研究者から、ガリシア語教育については、これまでロマンス語の知識を有する学習者を対象とした教授法が採られてきたが、今後はロマンス語の知識を有さない学習者向けに教授するための教材開発も必要になるだろうとのコメントがなされ、共同研究者たちと今後新たな教材開発を行う方向で研究を行うことを確認した。
(2) 相手国との交流 (海外の研究者と学術交流することによって得られた効果)
ポルトガル・ミーニョ大学に所属する共同研究者が学会長として今次の大会を開催したため、ポルトガルの研究者や学生との交流を行うことができた。また、同学会には200人以上の世界中の研究者が所属しており、今次研究大会にも多くの研究者が参加した。4日間にわたり多くのセッションで言語学、言語政策、文化、文学など様々な分野の研究報告が行われ、多くの研究者と意見交換を行い、人的ネットワークを広げることができた。特に、スペイン、ブラジル、ポーランド、アメリカ合衆国からの参加者と交流を深める時間を持つことができ、今後の共同研究や相互の訪問などの可能性について話し合うこともできた。
(3) 社会貢献 (社会の基盤となる文化の継承と発展、社会生活の質の改善、現代的諸問題の克服と解決に資する等の社会的貢献)
地域言語ガリシア語はスペインのガリシア自治州でスペイン語 (カスティーリャ語) と共に公用語となっている。80年代以降、公的機関をはじめ教育やメディアなどでの使用が制度的に整備されてきたが、日常的な使用は低迷している。この原因の一つに、言語のイメージがある。本研究では外国語としてガリシア語を学ぶ人たちの存在に焦点を当て、その動機の解明を目指している。外国語としての学習者の存在は、ガリシア語話者の自身の言語に対するイメージ改善につながりうると考えられている。この研究で明らかになったことをもとに、ガリシア語をはじめとする少数言語の存在意義を提示していくことができるだろう。そうすれば、少数言語の将来についての考え方を提示でき、話者たちに対しても自身の言語に対する肯定的な考え方を持つためのヒントを示すことができるだろう。
(4) 若手研究者養成への貢献 (若手研究者養成への取り組み、成果)
該当なし

(5) 将来発展可能性 (本研究を実施したことにより、今後どのような様な発展の可能性が認められるか) 本研究の成果を踏まえ、少数言語を外国語として学ぶ際の課題を提示することで、今後は、例えば少数言語を学ぶための教材を開発することなど、具体的な応用が可能と考えられる。また、話者数が少ない言語を外国語として学ぶ学習者がどのような動機でその言語を学んでいるのかを明らかにできれば、外国語学習や外国語教育全般に対して、今後のあり方に示唆を与えることができる。つまり、実用性だけではない、言語学習の意義を示すことで、英語以外の言語を学習することの意義も説得力を持って示せるだろう。また、AIをはじめとする技術の進展で言語学習の必要性が低下し、言語教育は大きな転換点を迎えようとしている。このような状況下で言語を人間が学ぶことの意義を考えるうえでも、本研究の成果は大いに参考になると考えられる。

(6) その他 (上記 (1) ~ (5) 以外に得られた成果があれば記述してください。)

例：大学間協定の締結、他事業への展開、受賞、産業財産権の出願・取得等

該当なし

2. 研究発表 (本共同研究の一環として発表 (予定含む) したものについて記述してください。なお、印刷物がある場合は1部添付してください。)

例：共著論文、口頭発表、出版、ポスター発表

口頭発表：ATTILIO CASTELLUCCI (UNIROMA) CARLOS PAZOS JUSTO (UMINHO) TAKESHI KAKIHARA (KWANSEI GAKUIN) MARÍA JESÚS BOTANA VILAR (UALG) Os estudos galegos no exterior: contributos para un diagnóstico (4月19日共同研究成果報告)

口頭発表：TAKESHI KAKIHARA (KWANSEI GAKUIN) Motivación dos estudantes de lingua galega para aprender este idioma e o seu uso real (4月19日個人研究成果報告)